

新しい「領解文」(浄土真宗のみ教え)についての消息発布

令和5年1月16日(月)御正忌報恩講日中法要(ご満座)にて



第60号

発行所

浄土真宗本願寺派 本願寺神戸別院
〒650-0011 神戸市中央区下山手通8丁目1番1号
Tel: 078-341-5949

新しい「領解文」

(浄土真宗のみ教え)

南無阿彌陀仏

「われにまかせよ そのまま救う」の 弥陀のよび声

私の煩惱と仏のさとりは 本来一つゆえ

「そのまま救う」が 弥陀のよび声

ありがとう といいたたいて

この愚身をまかす このままで

救い取られる 自然の浄土

仏恩報謝の お念仏

これもひとえに

宗祖親鸞聖人と

法灯を伝承された 歴代宗主の

尊いお導きに よるものです

み教えを依りどころに生きる者 となり

少しづつ 執われの心を 離れます

生かされていることに 感謝して

むさぼり いかりに 流されず

穏やかな顔と 優しい言葉

喜びも 悲しみも 分かち合い

日々に 精一杯 つとめます

み教えの肝要が広く、また次の世代に確実に伝わることを願われ示されました。
ぜひとも、新しい「領解文」(浄土真宗のみ教え)を拝読、唱和いたしましょう。

2024(令和6)年

5月16日～19日(4日間修行)

兵庫教区・本願寺神戸別院

親鸞聖人御誕生850年・

立教開宗800年慶讃法要

兵庫教区・神戸別院法要推進委員会

3月29日から5月21日までの5期
30日間、京都・西本願寺にて、「親
鸞聖人御誕生850年・立教開宗8
00年慶讃法要」が勤められる。こ
の記念すべきご勝縁を、本願寺神戸
別院においても法要を修行すること
になった。

法要の趣旨

「親鸞聖人の説き示してくださった
浄土真宗の教えに出遇うことがな
ければ、今の私はあり得なかったと
いう聖人への感謝と、その教えに出
遇えたことの喜びを込めて、聖人の
ご誕生を祝い、『立教開宗』に感謝
する」ことを趣旨に勤める。

親鸞聖人 御誕生
50
立教開宗
800



昨春秋、法要に向けての準備委員
会「兵庫教区・神戸別院法要推進委
員会」が結成され、当院からは、責
任役員及び総代が委員として参画し
ている。
11月21日、推進委員会常任委員に
て会議が開かれ、協議の結果、右記
の日程で修行が決定した。
具体的な内容・協賛行事について
は、今後の委員会にて協議されるが、
慶讃法要とは別の日に、より多くの
方が参加できる会場にて講演会・シ
ンポジウム等の行事を開催する方針
となった。

令和4年度 本願寺神戸別院報恩講法要

3年ぶりに一部制限を緩和

本願寺神戸別院報恩講法要が、11月26日から28日までの3日間営まれた。令和2年度・3年度の法要は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため人数制限が設けられていたが、3年ぶりに一部緩和しての修行となった。

法要は、26日午後2時、松本隆英輪番導師のもと連夜法要が始まった。この度は、教区内(兵庫県・岡山県一部)寺院からの僧侶の出勤を受付したため結衆(内陣に着座する僧侶6名)と列衆(余間に着座する僧侶)の出勤となり少しコロナ禍前の法要に戻ったような印象となった。

新しい試みとして、余間の空間を広くするため、奏楽員(雅楽を演奏する僧侶)を外陣正面に配置した。法務担当者は、「コロナ禍後の法要に、多くの僧侶の出勤を望み盛大に法要を営みたいの思いから工夫して行った」と語った。

27日、10時からの日中法要には、120名の参拝があり3日間の中で最大の参拝者数となった。

28日、午前10時の満日中法要では、導師の松本輪番は、本宗門の最高の礼装、七条袈裟を着用し3日間で最後の法要を勤めた。

また、講師に、御厨得雄師(滋賀県守山市・慶先寺)を迎え4座8席の法話をいただいた。師

は、参拝者によりわかりやすく伝えるため、スライドを用いて親鸞聖人のご生涯・足跡を訪ね、ご遺徳を偲びながらお念仏に出遇えた喜びを丁寧に話した。

さらに、協賛行事として、「モダン寺お楽しみ会」、「ひと握りのお米プロジェクト」も行われた。

「モダン寺お楽しみ会」は、28日の法要後に、ホテルのギフト券などの豪華記念品があたるビンゴ大会が初めて行われ、参加者は楽しいひと時を過ごした。

「ひと握りのお米プロジェクト」は、ご自宅のお米を募り、子ども食堂などへ届ける取り組み。賛同した参拝者からたくさんのお米が寄せられ、別院近隣で子ども食堂を開いている生田診療所などに届けられた。

法要後、松本輪番は、「初めての神戸別院での報恩講法要を、無事に勤めることができました。協賛行事も好評でよかった」と胸をなでおろした。

花隈モダンタウンフェスティバル

近隣の団体、花隈モダンタウン協議会主催による「第6回花隈モダンタウンフェスティバル」が、27日開催された。屋内では、昔の花隈界隈によく足を運んだ俳優の石原裕次郎さんを中心に当時の写真が展示されていた。一方、屋外では、沖繩そばやかつめしなどのキッチンカーが来店するなど終日、境内地が賑わっていた。

教化団体 報恩講法要

別院仏教壮年会

別院仏教壮年会の報恩講法要が、12月10日に修行。午後2時から、会員による「正信偈」(行譜)の修行に始まり、丹波市から尾井秀瑛師を招いての法話を聴聞した。

別院仏教婦人会

別院仏教婦人会の報恩講法要は、令和5年1月20日午後2時から営まれた。松本輪番を調声に、「正信偈」(行譜)のおつとめにて始まる。修行後は、輪番及び職員による法話があり会員一同が聴聞した。

仏婦恒例のお斎については、中止となったため、会員からは、「お斎が出来ずに残念。作り方を忘れそうだ」との声が聞かれた。

モダン寺土曜子ども会

子ども会では、別院報恩講法要に供える供物作りが、11月12日に行われた。子どもたちが大好きなチョコレート、円柱に貼り付けてお飾りを作った。参加した子どもたちは、楽しそうに作成に励んでいた。



阪神・淡路大震災物故者総追悼法要

1・17いのちを考える研修会

「阪神・淡路大震災物故者総追悼法要」並びに「1・17いのちを考える研修会」が、3年ぶりに制限を緩めて1月17日に開催された。

コロナ禍では、宗門関係学校の生徒による「いのち」の大切さを書いた作文朗読、講師を招いての講演を自粛していたが、このたびは制限なく行われた。

午後1時半から、雅楽が鳴り響く中、6名の僧侶が入堂後、宗門関係学校の生徒4名が献花し、法要が始まった。約70名の参拝となり「正信偈」のお勤め、焼香となった。

お勤め後、作文朗読があり、山本嘉希さん（成徳学園 神戸龍谷中学校）、辻実桜さん（睦学園 兵庫大学附属須磨ノ浦高等学校）、吉谷ねねさん（成徳学園 神戸龍谷高等学校）、川田結月さん（睦学園 兵庫大学）の4名が心を込めて朗読した。

法要に引き続き、「1・17いのちを考える研修会」が開催された。講師は、気仙沼市のすがとよ酒店・店主の菅原文子さん。自身の経験を基に、「生かされたいのちを生きる」と題した講演となった。

菅原さんは、2011年3月11日の東日本大震災による津波で、店舗

兼住宅が全壊、さらに、義父母を失い、夫が行方不明となった。

被災後、約1カ月半で、仮設店舗での営業を再開。自身が筆字で書いたオリジナルラベル「負けねえぞ気仙沼」の地酒が注目を集め、たくさんのお客様が買い求め、たくさんの応援メッセージが届いたことや、「大切な人に手紙を書こう」の企画に、行方不明の夫に宛てた手紙が、大賞を受賞し話題となった。そのことがきっかけで、浄土真宗とのご縁をいただかれた体験を語った。

講演後、和太鼓松村組の演奏。和太鼓松村組は、阪神淡路大震災で被災された方々への激励と、神戸の復興エネルギーを全国に発信する事を目的に神戸で発足した団体で、「和と世界の交響音楽」をコンセプトに和太鼓の持つ響きの真髄に迫りつつも、マリンバなどの民族楽器等との融合を図り独自のサウンドを追求した演奏が特徴である。

阪神・淡路大震災を経験した参加者が、菅原文子さんの講演に共感し、会場で販売した書籍やお酒を購入し笑顔で話しかける姿や、和太鼓の力強い演奏に立ち上がり拍手を送る姿から、集まる喜びを改めて感じる一日であった。

兵庫・岡山テレホン法話集

「宝の山」

神戸市 徳本寺

津守秀憲

先日、テレビを見ていますと、あらゆる分野の専門家の方たちが「人類の未来」について討論をされています。「このままでは地球は住めなくなってしまうから別の惑星に移住をしよう」「科学技術の発達によって人間の考える力はだんだんと少なくなるから人類は減んでいくだろう」と数百年後はこうなっていくだろうという話を専門家の方々が討論されているのです。

私は、その討論を眺めながら違和感を覚えました。これは「人類がどうなっていくか」という話をしていくだけです。専門家自身の「私はこの命終わってどうなっていくてしまうのか」という私の目線がないのです。

人類がどうなっていくのかというのも大事な問題でありましょう。けれども、生きること死ぬことというのはどこまでいっても私の話であって、誰も代わってはいけません。私は、命終わってどうなってしまうのか。これは、人間同士で話し合ったところでなんの答えも出てきません。だれもこの先の世界を経験したことなどないのです。そんな私の命の行き先を案じ、「われにまかせよ」とおっしゃってくださいるのが阿弥陀さまという仏さまです。



源信和尚というお方は、「宝の山に入りて、手を空しくして帰ることなかられ」（せっかく阿弥陀さまの話を聞ける場所に生まれてきたのだから聞くがよい）とお示しくださりました。

私たちは有り難いことに、今、阿弥陀さまの話を聞ける世界に生まれてきています。そんな阿弥陀さまの話をどう聞くか。黙って聞くのです。私たちのこの賢い頭はいざ命終わっていくとき何の役にも立ちません。自分の賢い頭を横に置き、阿弥陀さまの仰せをそのままお聞かせいただくのです。

「人生色々」といいますが、人生は二色です。自分の智慧才覚を頼りに生き、死んだらしまいという人生を送るか。阿弥陀さまのまこと真実の言葉をいただいて命終わってお浄土の仏となる人生を送るのか。

私が案ずる先よりも先に私のことを思ってくださった阿弥陀さまが、今、南無阿弥陀仏とご一緒であります。

別院ホームページにて、兵庫教区青年僧侶の会で作られた3分程度の法話が配信されています。ご視聴ください。

※過去に配信されたご法話を編集し掲載いたしました。



花隈駅の別院看板を刷新

別院最寄りの駅、花隈駅（阪急電鉄神戸高速線）に設置している看板が新しいデザインのものに変更された。従来の看板は、壁面の茶色と同化していたことから少し暗いイメージであったため刷新することに。本願寺の紋章である「下がり藤」の藤をモチーフにして、写真も明るいものを使用。シンプルでありながらもアピール力のある看板となっている。設置場所は、花隈駅西口寄りの上りホーム。



デザインを一新した
花隈駅の看板

慶讃法要に向けて懸垂幕を設置

親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要のスローガン「縁を慶び、お念仏とともに」を周知するため懸垂幕が設置された。設置場所は、別院南東の道路沿い。朝の時間帯、花隈駅から山側に向かう通勤者が多く、また、JRの高

架から見ることができると、ご門徒以外の方にも周知できることに期待されている。



事務所に「ガチャガチャ」が…



謎のガチャ

モダン寺の2階事務所に、ガチャガチャがある。来院された方から、「何のガチャですか？」と聞かれたり、子どもたちがすぐ興味津々に見ている謎のガチャガチャ。早速、職員に聞いてみると、「お香」が入っているとのこと。納骨所にお参りされた際に、お焼香用のお香がなく困らされている方のために考えられたようだ。5グラムほどを小分けしたお香がカプセルに入れられており、100円

おしえてモダン寺コーナー

問 浄土真宗のお寺は、参拝者の場所が他の宗派に比べて広いように感じますが、何か理由があるのでしょうか。

答 一人でも多くの方に、ご法話を聞いていただくため広く取られています。仏法（ほとけさまのお話）は、「いつ誰が聞くのか」というと、「今、生きている間に、この私が聞かなければならない」ものです。ですから、浄土真宗のお寺は、僧侶が修行をする場所ではなく、私たち一人ひとりが、仏法を聞かせていただくための場所となります。それ故、「聞法の道場」とも言われます。おいしい食事は、自分自身が食べて、初めておいしいとわかるのと同様に、モダン寺で、僧侶と共に仏法を聞かせていただき阿弥陀さまのお慈悲を味わいましょう。

2023(令和5)年度 本願寺神戸別院 法要行事予定

【恒例法要】

宗祖降誕会	5月28日(日)	午後2時
永代経法要	6月25日(日)	午後2時
暁天講座	8月1日(火)～3日(木)	午前7時
盂蘭盆会	8月15日(火)	午後2時
秋季彼岸会	9月22日(金)～24日(日)	午後2時
報恩講法要	11月26日(日)～28日(火)	

日中:午前10時、速夜:午後2時

除夜会	12月31日(日)	午後4時
元旦会	1月1日(月)	午前7時

阪神・淡路大震災物故者総追悼法要

「いのち」を考える研修会 1月17日(水)

春季彼岸会 3月19日(火)～21日(木)

※20日(水)は、納骨者総追悼法要を併修 午後2時

【日時勤行】

お晨朝 毎日 午前7時

【毎月の法座】

第一土曜仏教講座	第1土曜日	午後1時30分
常例法座	15日・16日	午後2時